

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和6年度2月号

○ 概要

- (1) 令和6年度2月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,614億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）▲3.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,502円（伸び率+0.4%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が1,839億円（伸び率▲0.7%）、薬剤料が4,762億円（伸び率▲4.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,000億円（伸び率+2.2%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,256円（伸び率▲1.9%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.84種類（伸び率+2.1%）、27.2日（伸び率+1.5%）、68円（伸び率▲5.4%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料3,659億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）▲232億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の696億円（伸び幅▲12億円）で、伸び幅が最も高かったのは52 漢方製剤の+25億円（総額148億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,659 億円 (▲232 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(696 億円)	21 循環器官用薬 (513 億円)	42 腫瘍用薬 (493 億円)
0 歳以上 5 歳未満	17.4 億円 (▲1.4 億円)	44 アレルギー用薬 (5.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	98.3 億円 (▲14.8 億円)	44 アレルギー用薬 (34.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (25.4 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,398 億円 (▲81 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(263 億円)	11 中枢神経系用薬 (256 億円)	42 腫瘍用薬 (163 億円)
65 歳以上 75 歳未満	731 億円 (▲82 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(168 億円)	42 腫瘍用薬 (130 億円)	21 循環器官用薬 (116 億円)
75 歳以上	1,414 億円 (▲53 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(258 億円)	21 循環器官用薬 (239 億円)	42 腫瘍用薬 (196 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,502円（伸び率+0.4%）で、最も高かったのは北海道（11,395円（伸び率+2.3%））、最も低かったのは佐賀県（8,284円（伸び率+1.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+8.4%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲1.7%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	90.6 %	+5.3 %
薬剤料ベース	21.0 %	+1.5 %
後発品調剤率	83.7 %	+2.0 %
（参考）数量ベース（旧指標）	62.2 %	+1.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+2.2 %	+12.3 % (15 歳以上 20 歳未満)	▲5.0 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.0 %	29.1 % (100 歳以上)	16.7 % (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	90.6 %	93.1 % (100 歳以上)	89.4 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	825 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	11 中枢神経系用薬 (140 億円)	23 消化器官用薬 (92 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.2 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (4.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	22.3 億円 (▲0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (14.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	298 億円 (▲2 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (48 億円)
65 歳以上 75 歳未満	161 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (59 億円)	11 中枢神経系用薬 (20 億円)	23 消化器官用薬 (19 億円)
75 歳以上	336 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (114 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,437 円	1,841 円(北海道)	1,198 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.6%	+9.9 %(福井県)	+2.1 %(島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	90.6 %	94.1 %(沖縄県)	88.0 %(東京都)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	21.0 %	23.4 %(山梨県)	18.5 %(福井県)
後発医薬品調剤率	83.7 %	86.7 %(福島県)	80.5 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	62.2 %	66.6 %(沖縄県)	59.2 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和6年度2月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。